

科目名	オブジェクト指向言語I	英文表記	Object Oriented Programming Language I		2016/3/14			
科目コード	4314	教員名:佐野誠一(非常勤講師)					作成	
技術職員名:								
対象学科/専攻コース		学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間	
メディア情報工学科		4年	選	学修	2単位	講義	後期	
科目目標 【MCC目標】	Java言語の文法を理解、習得し、Java言語のクラスライブラリの使用方法を理解、習得する。オブジェクト指向の基礎概念を理解、習得することを目標とする。 【V-D-1】プログラミング分野 【VI-D】プログラミング基礎実習							
総合評価	定期試験(中間)の平均点 50%、演習やレポートなどの課題及び PBL における発表や貢献度等 50%の割合で総合的に評価する。60%以上を合格とする。							
科目目標達成度	科目達成度目標		達成度目標の評価方法		ルーブリック			
					理想的な到達レベル	標準的な到達レベル	最低限必要な到達レベル	セルフチェック
	① Java言語の文法を理解し、クラスライブラリの使用方法を理解することができる。(A-3)		正しく説明できるか定期試験および講義での小テストで評価する。		Java言語の応用的な文法とクラスライブラリの使用方法を理解し、クラスライブラリを使用した実装ができる。	Java言語の応用的な文法について理解し、クラスライブラリの概念について理解できる。	Java言語の文法についてC言語と比較しながら理解することができる。	
② オブジェクト指向の基礎概念を理解することができる。(A-3)		正しく説明できるか定期試験およびPBLで評価する		Java言語におけるオブジェクト指向の実装について理解し、必要なクラスを実装できる。	Java言語におけるオブジェクト指向の実装について理解できる。	オブジェクト指向の基礎概念について理解できる。		
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4	<本科教育目標> (3)専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する			
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合								
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック	
評価項目		50	0	0	50	100		
基礎的理解	①	50				50		
応用力(実践・専門・融合)	②				50	50		
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)						0		
主体的・継続的学修意欲						0		
授業概要、方針、履修上の注意	本授業では、オブジェクト指向言語であるJava言語を学びます。基本的な文法だけではなく、継承・カプセル化・ポリモーフィズム等のオブジェクト指向を学びます。演習では講義内容に応じたプログラミング課題に取り組みます。							
教科書・教材	自作教材							

授 業 計 画					
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェック
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
期末	期末試験	[0]			
16	ガイダンスと開発環境整備	2	授業内容の説明と Java 開発環境の整備を行う	開発環境	
17	Java 言語文法 (1)	2	変数、データ型、演算子について学ぶ	演算子	
18	Java 言語文法 (2)	2	条件分岐、繰り返し制御、配列について学ぶ	制御構造	
19	Java 言語文法 (3)	2	メソッドのシグネチャ、オーバーロードについて学ぶ	メソッド	
20	クラスとインスタンス	2	クラスとインスタンス、コンストラクタについて学ぶ	クラス	
21	例外処理とパッケージ	2	try-catch、throw、パッケージについて学ぶ	例外処理	
22	クラスパス	2	クラスパスについて学ぶ (※後半は中間試験)		
23	継承 (1)	2	メソッドのオーバーライドについて学ぶ	オーバーフィ ド	
24	継承 (2)	2	継承とコンストラクタについて学ぶ	継承	
25	ポリモーフィズム (1)	2	インターフェースの定義、利用法について学ぶ	インタフェース	
26	ポリモーフィズム (2)	2	抽象クラスの定義、利用法について学ぶ	抽象クラス	
27	Collection フレームワーク	2	List、Set、Mapの利用法について学ぶ	Collection	
28	PBL (1)	2	オブジェクト指向を意識した対話型のプログラミング	-	
29	PBL (2)	2	を、	-	
30	PBL (3)	2	チームで作成する	-	
期末	期末試験	[2]			
学習時間合計		30	実時間	22.5	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間(試行)	
①	レポート(その週の講義内容に沿った内容についてレポートを課す。)			各3時間×15回	
②	12回目の講義後にレポート(PBL)を課す。			15時間	
③					
備考欄					
<ul style="list-style-type: none"> ・ この科目の主たる関連科目はプログラミングⅠ(本科1年)、プログラミングⅡ(本科2年)、プログラミングⅢ(本科3年)、アルゴリズムとデータ構造(本科3年)、オブジェクト指向言語Ⅱ(本科5年)である。 ・ 対応するモデルコアカリキュラム(MCC)の学習到達目標、学習内容およびその到達目標を【】内の記号・番号で示す。 ・ 科目区分 専門科目A群 計算機システムに関する科目 					

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)